

旭川医大病院ニュース

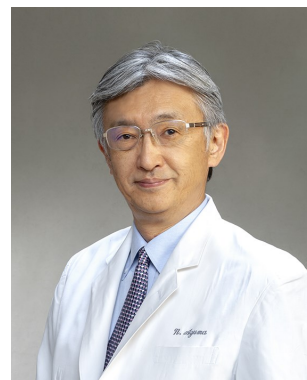
<https://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝

病院に勤務する全ての皆様へ 新年のご挨拶

病院長 東 信良



令和7年がスタートいたしました。皆様、明けまして、おめでとうございます！

昨年は、まず、能登半島地震からスタートした年でしたが、当院からも3度にわけて、DMAT隊を送り、旭川医科大学病院チームが冬の被災地において大きな貢献をしました。危険を伴う発災後早期から現地入りしていただいた皆様にはこの場をお借りして、病院職員を代表して心より敬意を表します。

昨年は、医師の働き方改革による時間外労働時間規制が始まった、医療界にとっては大きな転換点の年でもありました。これまで無制限に働くことで何とか我が国の医学の発展や、北海道の医療を支えてきた我々旭川医科大学病院医師たちは、働く時間を制限された状態でこれまでの質を保った医療を提供するとともに、教育と研究を行うことが求められ、それを解決するための人員増も許されず、そうした中で唯一頼みの綱となるであろう、タスクシフトとデジタルトランスフォーメーションに注力した1年でもありました。

スタートした令和7年は、昨年取り組んできたタスクシフトとデジタルトランスフォーメーションの2本柱の成果がいよいよ実感される年になって欲しいと願っております。入院においては、退院日管理改革、AIレセプトチェッカーなどが本格稼働し、外来では、他院からのweb初診予約や後払いシステムが導入されました。また、年度内には退院時要約記述支援システムやAI胸部レントゲン写真判定アプリの導入を予定しており、医師も看護師も他の医療職もそして患者さんも効率化や利便性を体感できるのではないかと期待しております。予算が許せば、今年もAIによる各種説明動画作成や音声入力システムなどを導入したいと考えております。こうした取り組みは、大学病院の本来の役割である高度医療だけでなく、医療者育成や先端研究を進める時間を生み出してくれるものと期待しております。

一方、医療を将来の仕事に選択する若者の減少に加えて、若者人口そのものの減少のダブルパンチが我々の提供しようとする医療の脅威となってきており、凄まじい勢いで襲い掛かってきております。

我々は引き続き、最後の砦として求められる病院であり続け、かつ、さらに高みを目指す医療者には資格取得に対する手厚い支援を行って立派な医療人を育成することを継続しなければなりませんし、そういった姿を地域の方々をはじめ、広く世間に知っていただいて、医療を目指す若者を増やし、この病院で将来働きたい！と思っただけの病院として進化を続ける役割があるものと思っております。



今年も物価高騰、人件費高騰、電子カルテ高騰など大変な荒波が待っていますが、皆様とともに一致団結して魅力ある旭川医科大学病院であり続ける、そんな1年であることを願っております。

◀ 当院第1回目の記念すべきオープンホスピタルイベントを準備した職員一同

当日集まってくださった150名近くの学生さんに対して、各職種がそれぞれブースを出して魅力をアピールしました。

今年もやります。是非、皆様、周りの方々にお伝えいただけますよう、お願いいたします。

旭川医科大学公認クラウドファンディング 1月15日（水）より寄附金募集をスタート！



大学を取り巻く環境が日々変わっていく中、更なる教育・研究の活性化のために、様々な形で支援獲得が重要になってきております。その有力な手段としてクラウドファンディングを活用することで、各研究室の活動や大学の設備投資などに対する寄付金等を獲得する機会が広がります。今回新たに立ち上げた「旭川医科大学 × READYFOR」では、1月より計3プロジェクトを開始いたします。

※クラウドファンディングへのご寄附については、税法上の優遇措置が受けられます。

※ご寄附にあたっては以下のQRコードからプロジェクトページをご確認ください。



旭川医科大学 学長 西川祐司より

日頃より本学を暖かく見守っていただき、ありがとうございます。本学はこれからも皆様に信頼される高等教育機関としての、そして北海道、特に道東・道北地域の保健・医療・福祉を支える医療機関としての大切な役割を果たしていく所存です。しかしながら、昨今の物価高騰、人件費増、光熱水費増などの外的要因により本学の財政はかつてないほどのきびしい状況に陥っております。そのため、意欲のある本学教職員が新しいプロジェクトを企画しても、それを実行するための十分な財源を確保することができません。地域に密着した国立大学として、この状況を打開すべく、この度、クラウドファンディングを始めさせていただくことにいたしました。前向きに努力している本学教職員に対し、ご支援をいただければ幸いです。

1



膵がん早期診断へ向けた、 血液を用いる新たな診断法の開発

内科学講座（消化器内科学分野）講師・先進ゲノム地域医療講座 特任准教授（兼務）
高橋 賢治

目標金額：750万円

ご寄付募集期間：4月15日（火）23時まで

消化器内科の高橋賢治と申します。このたび本学のご支援のもと、クラウドファンディングに挑戦する機会を得ました。私は膵臓・胆道領域を専門に教育・診療・研究に従事しており、「どのようなアプローチで膵胆道癌を早期発見できるか」を考えて参りました。

その中で近年、血液など体液中の核酸解析を用いた新しい診断法（リキッドバイオプシー）が注目されています。体液中に存在する腫瘍由来の情報の中でも DNA変異やRNA発現、そして細胞外小胞（EV）という小さな顆粒に着目し、これらを精密に捉えるマルチレイヤーな診断体系の構築を産学連携で進めて参りました。特に2018年から共同研究を続けているHUGグループ中央研究所とは、体液からEVを高精度に回収する技術を考案し有用性の検証を進めております。私どもの技術と研究成果を活用し、最難治癌である膵癌の早期発見を目標に、各種体液を用いた「膵癌診断パネル」の臨床実装化と、低コスト化・簡便化を図り、スクリーニングや検診への応用を目指しております。

今後もさまざまな検証を重ねる必要があり、今回のクラウドファンディングは、そのために必要な費用に充てることを目的に挑戦しております。皆様のご指導・ご支援のほどをどうぞ宜しくお願い致します。

なお、本プロジェクトは目標金額の達成の有無にかかわらず寄付金を受け取ります。

（All in方式）



<https://readyfor.jp/projects/LiquidBiopsy>

2



血液がん治療の地域格差を解消したい！ 移植治療の環境整備にご支援を

旭川医科大学病院 内科（血液）講師
高橋 秀一郎

目標金額：500万円

ご寄付募集期間：3月14日（金）23時まで

2024年4月より旭川医科大学内科学講座（血液内科学分野）の講師に着任致しました、高橋秀一郎と申します。2025年1月よりクラウドファンディングに挑戦させて頂くこととなりましたので、この場をお借りして皆様にご紹介させていただきます。

急性白血病は代表的な血液がんの1つで、近年その治療成績は向上しております。同種造血幹細胞移植はその治療成績向上に大きく貢献した治療法ですが、実施施設は限られており道北・オホーツクの医療圏では当院を含む旭川市内の3施設でのみ実施可能です。近隣に移植治療を受けられる医療機関がなく、数時間かけて当院まで通院されている患者さんも多数いらっしゃる中で、最適なタイミングで患者の皆様に移植治療を提供できるよう、日々努力しております。

造血幹細胞移植の成功のためには、健常ドナーさんから頂いた造血幹細胞を専用容器で凍結保存しておき、患者さんの状態が良いときに移植を行うことが重要ですが、この凍結保存容器は白血病以外の患者さんの治療にも使用されるため、保存スペースが慢性的に不足し、移植治療の日程調整に困難を極めております。そこで本プロジェクトでは、細胞凍結保存容器の追加購入のための資金調達をクラウドファンディングにて募りたいと考えております。道北、オホーツクエリアで移植が必要な患者様に最適な医療を提供できるよう、皆様の暖かいご支援をお願い致します。

なお、本プロジェクトは目標金額を達成した場合のみ寄付金を受け取ることができます。

（All-or-Nothing方式）



<https://readyfor.jp/projects/ABC2025>

3



微生物から薬を創る！小児白血病の 薬のタネを探す、創薬研究の第一歩を

消化器先端医学講座 特任講師
小西 弘晃

目標金額：400万円

ご寄付募集期間：3月14日（金）23時まで

日本では年間1000人程度の小児が白血病を発症します。医療技術の進歩により小児白血病患者の5年生存率は80%以上に達しましたが、再発症例や1歳未満の乳児白血病は予後が悪いのが現状です。また、抗がん剤治療による副作用の発生頻度は90%以上と高く、治療の影響による成長障害や発達遅延などの様々な生体機能の障害が問題視されています。

私たちはこれまでに微生物が産生する分子が腸管保護作用や抗がん作用を持つことを解明してきました。実例として、麦芽乳酸菌由来ポリリン酸が腸炎治療効果を持つことや、乳酸菌由来フェリクロームや麹菌由来ヘプテリジン酸が安全性を保持しつつ抗がん作用を持つことを示しました。現在は潰瘍性大腸炎や多種類のがんを対象とした治療薬の創出を目指し、研究に取り組んでいます。今回のクラウドファンディングでは小児白血病の治療効果を持つ微生物由来分子を新たに同定することを目指します。プロジェクト達成後には、同定した抗がん分子を実臨床へ応用することを目指した橋渡し研究につなげたいと考えています。ご質問やご意見があればご連絡いただけますと幸いです（TEL：0166-68-2462 E-mail：hkoniishi@asahikawa-med.ac.jp 担当：小西）。

この挑戦に共感いただける方々からの温かいご支援を、どうかよろしくお願い致します。

なお、本プロジェクトは目標金額を達成した場合のみ寄付金を受け取ることができます。

（All-or-Nothing方式）



<https://readyfor.jp/projects/probiotics>

アカデミア発革新的診断・治療法の早期実用化を目指して

北海道大学病院整形外科 特任教授
(旭川医科大学医学部 第19期卒業) 須藤 英毅



この度は、旭川医科大学医学部同窓会より第23回医学奨励賞(学術奨励賞)を賜り、心より感謝申し上げます。学生時代、豊かな自然に恵まれた旭川で過ごさせていただきました。卒業20数年後の現在でも、高砂温泉や旭川ラーメン店などを訪れて、学生時代を思い出しています。

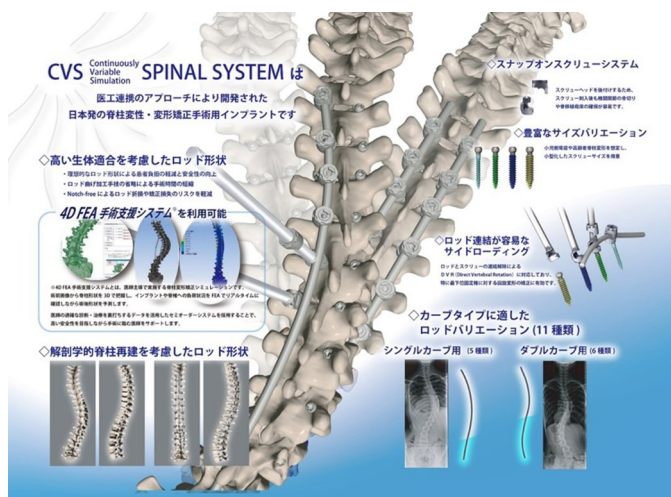
私はこれまで、整形外科医として日々の現場で生じているニーズや臨床研究により明らかになった課題に対して、基礎研究から開始し、橋渡し(トランスレーショナル)研究へと繋げ、再び臨床研究を実施してその効果を実証するリバーストランスレーショナルアプローチ(rTR)の手法を取り入れた実用化研究を行ってきました。大きく分けて、1)脊柱変形疾患に対する医療機器開発と、2)椎間板再生医療研究を実施してきましたので、以下にご紹介させていただければと思います。

1)整形外科で最も難易度の高い手術治療の一つである脊柱変形疾患に対する手術法は、術者の経験や勘に大きく依存しています。私はこれまでに時空的観点を取り入れた革新的手術法を考案して世界に発信するとともに、このような暗黙知と呼ばれる手技を容易に実現できる脊椎インプラントを実用化しました。手術時間が短縮し、医療安全の向上にも貢献しています。脊椎外科手術用医療機器のデザインから製造までを一貫して行った独創的研究開発として、文部科学大臣表彰科学技術賞や日本医師会医学研究奨励賞などを受賞しています。さらに、小児期の50人に1人の頻度でみられる側弯症を早期に診断支援する医療機器を開発したことで保健文化賞を受賞しました。本賞は皇居内にて天皇皇后両陛下の拝謁を賜る大変栄誉ある賞とされています。

2)椎間板は、変性すると自然再生せずに椎間板ヘルニアや慢性腰痛症などの原因へと進行することが課題でした。これまでに、椎間板組織修復材としてアルギン酸を基盤とした超高純度硬化性ゲルを開発し、世界初の医師主導治験を行いました。さらに、重度変性例に対してはバイオマテリアル単独では限界があるため、超高純度幹細胞を併用した再生医療の確立を目指しています。一連の成果について、日本医療研究開発機構から「極めて優れている」との評価をいただいているほか、内閣官房 健康・医療戦略室からも紹介されており、今後10年以内の実用化を目指しています。

私が臨床医として目指している研究活動の到達目標は、医療技術の世界的向上と、それを可能にする医療機器などの実用化による社会実装です。革新的医療技術を中心とするオープンイノベーションを日本から世界へ発信するという理念のもと、産学連携、特許、薬事取得を密接に連携させることで、ハインパクトジャーナルへの掲載など世界的に評価される実用化研究へと発展させていきたいと考えています。より詳細な活動内容については、以下リンク先からご覧いただければ幸いです。

<https://www.hokudaiseikei.jp/pdf/researchmap202408.pdf>



「頭頸部癌早期診断と低侵襲治療の確立」で特別奨励賞受賞しました

恵佑会札幌病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

(旭川医科大学医学部 7期卒業)

渡邊 昭仁



この度、旭川医科大学医学部医学科同窓会 第23回医学奨励賞【特別奨励賞】を受賞した7期の渡邊昭仁です。この名誉な賞をいただき、本当に感謝しております。簡単に私の受賞内容を紹介し、旭川医科大学に思うことを書かせていただきます。

旭川医科学を昭和60年3月に卒業し、その後に旭川医科大学の耳鼻咽喉科に入局いたしました。旭川医科大学耳鼻咽喉科のメインテーマは頭頸部癌治療でしたので、私もその頭頸部癌(耳鼻咽喉科領域の癌)の治療に没頭しました。そして、多くの進行頭頸部癌の治療を勉強させていただきました。どうしても進行癌で診断されていることから切除も大きくなり、治療が成功しても、患者さんの日常生活は大きく変わることになります。そのような経験から、どうして早期診断できないのか？早期診断できれば小さな切除で癌が摘出され、術後の患者さんの生活も

大きく変わるらずに済むのではないかという考えが、私の頭の中・心の中で起こりました。そこで、咽頭バリウム検査や内視鏡検査等で早期癌を見つけることを決心し実行することになりました。旭川赤十字病院や日鋼記念病院といった関連病院では毎日のようにバリウム検査を行いましたが、結果的には早期癌診断できませんでした。その後、東京築地の国立がん研究センターで1年間癌の勉強を行い、市立稚内病院を経て恵佑会札幌病院に赴任しました。恵佑会札幌病院では多くの食道癌の患者さんを治療していました。この食道癌患者さん(食道癌は頭頸部癌の発生リスクとなります。)の内視鏡検査で、ついに自覚症状のない頭頸部癌の診断に至りました。早期癌診断を目指して10年目のことでした。そして、食道癌患者さんの咽頭・喉頭の内視鏡検査を行うと多くの咽頭・喉頭、そして口腔の癌が診断できることがわかりました。この発表の際には多くの耳鼻咽喉科の先生に「そんな早期の癌はありえない」と言われましたが、私の運命を感じるのは同様の考えを持つ消化器内視鏡の先生と出会えたことです。さらに運命的にオリンパス株式会社が癌を早期で見つける新しい光を開発した時期でした。年に4回上京し、早期咽喉頭癌の勉強会に参加し新しい内視鏡に触れる機会をいただきました。そして、特殊光(癌を見つける光)を用いた耳鼻咽喉科内視鏡での表在癌(超早期癌)診断を米国で学会報告し、医学雑誌に掲載されました。この情報等により日本の多施設で早期診断に興味を持ってくれるようになり、頭頸部癌学会で表在癌の取り扱い規約の作成担当にもなりました。治療についても最初の希望通り、早期癌診断は経口手術といった低侵襲治療にも繋がり、患者さんの術後の生活の質を落とさない治療ができました。現在は経口内視鏡切除や経口的ロボット手術を行い、患者さんに優しい治療を行えるようになっています。残り少ない勤務医としての時間をもう少しこの領域に費やしたいと思います。

上記のように、若い頃に私が感じたことを行動に移せたのはなんといっても当時の旭川医科大学・耳鼻咽喉科の指導の先生方の度量の大きさによるものと思っています。良き先輩に恵まれ、良き環境のもとに臨床(患者さんを診る医療)をさせていただき感謝しかありません。今回その母校でこの名誉な賞をいただきました。改めまして感謝申し上げます。



▲2017年にHead Neck誌に掲載された写真で、内視鏡的咽喉頭手術という低侵襲手術中の私の術中写真です。



『医療現場でのやさしい日本語』ワークショップを開催しました

看護職キャリア支援センター 教育プログラム開発部門



看護職キャリア支援センター教育プログラム開発部門では、『医療現場でのやさしい日本語』ワークショップを、11月5日に開催しました。今回は、東川町立東川日本語学校に通うインドネシア、台湾、韓国、中国、ウズベキスタン出身の留学生8名に模擬患者としてご協力いただきました。本学からの参加者は、医師、看護職、薬剤師、看護学科教員、事務職、医学生、看護学生と、多岐にわたる職種14名でした。

はじめに、看護職キャリア支援センター長、教育プログラム開発部門長である升田由美子先生より、『やさしい日本語』が医療現場でなぜ役立つのか、その背景と意義について講義がありました。その後、ウォーミングアップとしてわかりやすい言葉や表現に言い換える練習をしました。留学生の方々には、それらの言い換えが理解しやすいかどうかを○と×のプレートで評価してもらいました。ロールプレイでは、腹痛で外来受診した患者のシナリオをもとに、受付から問診、検査から診察、診察後の対応を、『やさしい日本語』に言い換える練習を行いました。

参加者からは、「留学生から直接フィードバックをもらえてとても役に立った」、「相手の反応を見ながらコミュニケーションができて楽しかった」などの感想が寄せられました。模擬患者を体験した留学生の方々からは、「外国人への伝え方を改善しよう」という思いがしっかり伝わり、嬉しかった」、「医師や看護師はこれまで遠い存在と感じていたが、今回の参加で近く感じられた」などの感想が寄せられました。

短時間ではありましたが、お互いの交流が深まり、笑顔あふれる楽しいワークショップとなりました。ご協力いただいた東川町立東川日本語学校の留学生の皆様、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



▲升田由美子先生による講義



▲終了後、記念撮影

関節リウマチの患者さん向けパンフレットができました

リハビリテーション部理学療法士 橋本 直宏・作業療法士 高橋佑弥



関節リウマチの治療は、薬物療法・手術療法・リハビリテーション・疾病教育を組み合わせることが肝要です。今回、リウマチ・膠原病内科と7階東病棟看護師、リハビリテーション科・部が協同し、これまでの関節リウマチ患者向けのパンフレットの内容を刷新しました。日本全国で、82.5万人の関節リウマチ患者がいると推定されています。これまで30～50代での発症が多いとされていましたが、近年は60代の発症が増加しています。関節以外の症状も注目されるようになり、以前のパンフレットでは触れられていなかった間質性肺炎や末梢神経障害、発熱や体重減少、倦怠感など全身に出現する症状についてパンフレットに追加しました。薬物療法は年々進歩し、現在では寛解または軽症で経過する患者は7割を超えています。パンフレットでは当院で行われる薬物療法を中心に紹介しています。内服の自己中断を防ぐためにも、患者自身が治療について理解し、関心が高まるように工夫をしました。2024年10月から7階東病棟でパンフレットの運用を開始しました。今後は他病棟に入院された関節リウマチ患者にもパンフレットを配布し、幅広く活用することを考えています。

関節リウマチのリハビリテーションは、炎症の程度に応じて運動内容を選択します。どの病期においてもストレッチや低負荷の筋力トレーニングは基本的なプログラムであり、炎症が増悪しないように運動量を調整して実施します。現在、入院中のみならず自宅でリハビリテーションを継続できるようにパンフレットにトレーニング動画のQRコードを掲載することや、旭川医科大学病院リハビリテーション部のホームページから閲覧できるYouTube動画の作成を検討しています。

① 関節症状（図1）：



② 関節以外の症状（表1）：

間質性肺炎	咳や息切れを生じる
胸膜炎・心膜炎	炎症により胸腔や心臓に水が溜まる
強膜炎	目の充血や痛みを起こす
末梢神経障害	手足の運動障害や感覚障害が生じる
リウマトイド結節	後頭部や肘、膝などに小さなコブができる
皮膚潰瘍・指趾壊疽	血管炎により傷が生じる
こつしょうじょう 骨粗鬆症	骨がもろくなり、骨折がしやすくなる
全身症状	発熱や体重減少、倦怠感などを認める

一流を学ぶ：山岸俊介先生講演会活動報告

外科学講座 心臓大血管外科分野 助教 潮田 亮平

2024年11月18日(月)、イムス東京葛飾総合病院の山岸俊介先生をお招きし、本学小講堂にて講演会を開催いたしました。イベントには学生、職員を含む約40名が参加し、大変活気に満ちた雰囲気の中で行われました。心臓外科の第一線で活躍されてきたご経験をもとにして、卓越した技術を磨くための日々の練習方法について、具体的なトレーニング例を挙げながら丁寧に解説いただき、参加者一同がその熱意と工夫に大いに刺激を受けました。さらに、ドラマ『ブラックペアン』の監修医としての経験談や撮影の裏側についても触れられ、普段聴くことの出来ない貴重なお話を伺うことができました。講演会後には懇親会を開催し、山岸先生の講演内容を直接質問できる機会は大きな学びとなり、参加者全員が積極的に交流を楽しんでいました。当科では、今後も全国からご高名な心臓外科の先生をお招きし、このような講演会を継続的に実施する予定です。これにより、学生や若手医師にとって良い刺激を与え、さらなる成長を促す環境を提供してまいります。今回の講演会は、医療への情熱を共有し、技術向上への意識を高める素晴らしい機会となりました。



「医学生・研修医の集い」のご紹介

旭川市医師会女性医師部会 部会長 長谷部 千登美



旭川市医師会女性医師部会では、女性医師支援・若手医師のキャリア支援を目的とした医学生向けの研修会を、二輪草センターとの共催で2004年から毎年開催してきました。開始当初は、出産・育児などを契機にキャリア中断を余儀なくされる女性医師が多いという状況から、先輩女性医師からの経験談やアドバイスの場として始まったものです。その後徐々に、女性に限らず男女関わりなくキャリア支援をすべきという考えから、卒業後の研修生活に関する話題提供に主眼を置き、『医学生・研修医の集い』というタイトルとして継続してきました。

本会では、市内の医療機関で研修中の初期研修医の先生から、ご自分の経験や学生さんへのアドバイスなどをご講演いただいています。研修医の皆さんのご講演は、よく考えて工夫をしながら準備していただいたものばかりで、いつも感心させられます。学生さんにとっては、ご自身の将来像を考えるにあたり、先輩となる研修医からいろいろな情報を頂けるといって、大変いい機会になるのではないかと考えています。

さらに、医師会という組織や活動内容をご存知ないという医師が多い現状ですので、少しずつでも医師会活動をご理解いただき、多くの先生に入会していただきたいという願いをこめて、医師会の紹介と入会勧誘のお話もしています。医師会の役割は、「国民の生命と健康を守る」「医師の医療活動を支える」という点にあり、後者の観点から学生さんや研修医の方達を支援すべく企画しているのが本研修会です。今後も旭川医科大学の先生方との連携をはかりつつ、皆さんのお役に立てるような企画を継続していきたいと考えております。



看護師特定行為研修第3期修了、第4期開始

看護部 看護師長（看護師特定行為研修担当） 大宮 剛

2024年9月30日に旭川医科大学病院看護師特定行為研修指定研修機関において、第3期の研修が修了しました。第3期研修は4名の看護師が受講し、そのうち1名は院外からの受講者で、当研修機関で初めて地域の医療施設で勤務する研修修了者が誕生しました。それぞれの修了者は修了式において、研修で得た知識や技術を生かし、患者にとって安心・安楽で、早期回復に向かえる特定行為を実践していくことを誓っていました。

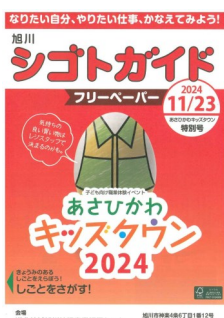
そして同年10月1日からは、受講者6名で第4期研修を開始しております。第4期は「術中麻酔管理領域パッケージコース」を新設しました。当院の特徴は、手術目的で入院する患者が多いことから、術中の看護の質向上及びチーム医療の推進につなげていきたいと考えています。現在、研修者は研修前半の半年間で学ぶ共通科目を学習しています。先日は初めての医師の講義がありました。医学的知識・技術の習得は簡単ではありませんが、指導医のあたたかく丁寧な指導を得て、学びを深めています。また研修者が集まって学習する日はそれぞれが学習した結果を共有し、協力しながら学習を進めています。

第4期研修においても地域の医療施設で勤務する受講者が2名参加しています。当研修機関では、今後も院内はもちろんのこと、地域の看護の質が一層向上することを目指していきます。



旭川医科大学キッズタウン病院☆開設

一般社団法人 AMUSE（旭川医科大学外科学講座教育支援機構） ・ 総務課



令和6年11月23日勤労感謝の日に開催された「あさひかわキッズタウン2024」に旭川医科大学キッズタウン病院が開設されました。平成29年度に当時の第一外科が中心となって出展して以来、コロナ禍で中止されていた一時期を除き、毎回出展を続けています。

今年は医員の浦本孝幸先生が中心となって出展の準備をし、血管外科と心臓外科の医師6人と事務局スタッフ4名で、参加者328人もの子の「お医者さんやっ

てみたい！」を叶えてきました。

旭川医科大学キッズタウン病院では8人のキッズドクターが2人ずつに分かれて「気管挿管」「超音波検査」「カテーテル治療」「腹腔鏡手術」「縫合」の全てを行います。集合時間に現れなかったキッズドクターを「急患です！」と呼びだすとなんと寿司職人の修行中だったり、ほかの職業に人材を取られてキャンセルが出たりするハプニングもありながら、毎回8人ずつ計48人の職業体験を無事に終えることができました。

医師や医学生が練習する本物の器材を使って、本物の医師に習いながらの体験は、子どもたちにとって、心に残るできごとになってくれると思います。医師になりたい、と心に決めているお子さんもいました。旭川医大で待ってますよ。



▲キッズ記者さんから取材を受ける浦本先生



▲キッズタウン病院のドクターと記念撮影

皆さまからのご寄附で、歩行器を設置しました

旭川医科大学基金

旭川医科大学基金では、皆さまからのご寄附により新しく歩行器を設置いたしました。病院正面玄関の車いすと並べてありますので、どうぞお使いください。

これからも、地域に根ざした医療、福祉の向上のため、積極的に活動してまいります。旭川医科大学基金については、病院ホームページからも詳細をご確認いただけます。皆様の温かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



旭川医科大学基金へのご寄附のお願い

詳しくは旭川医科大学Webサイトをご確認ください

【ご寄附の内容】

1. 基金全般へのご寄附
2. 修学支援事業へのご寄附
3. 研究等支援事業へのご寄附
4. その他



【基金へのお申込み方法】

1. クレジットカード、コンビニエンスストアでの払込
2. 郵便振替払込
3. 銀行振込
4. 大学窓口への直接払込



2025年1月配信開始
旭川医科大学ニュースレター
☆登録はこちらから

大学の活動をいち早くお知らせ。
創刊号は学長メッセージです。



永年勤続者表彰

勤労感謝の日にあわせ、11月27日(水)午後2時00分より、令和6年度本学永年勤続者表彰式が第一会議室で行われました。

表彰式は役員及び所属長の列席のもとに、学長から被表彰者に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、学長から永年にわたり本学の発展・充実に尽力されたことに対する感謝とねぎらいの挨拶がございました。

なお、被表彰者は次の方々です。(敬称略)

田崎 嘉一	(薬剤部)	教授)
濱田 珠美	(看護学講座)	教授)
田中 知美	(救命救急ナース・ステーション)	看護師)
氏家 陽子	(9階西ナース・ステーション)	看護師)
柳澤 享	(放射線部)	主任放射線技師)
猪俣 弘樹	(事務局会計課)	課長補佐)
嘉見 拓也	(事務局総務課国際企画係)	係長)
市川 さら	(事務局総務課広報・社会連携係)	係長)
阿部 大	(事務局経営企画課病院総務係)	係長)
笹田 慶樹	(事務局医療支援課医療支援係)	係長)



診療技術部門 の お仕事紹介

視能訓練士 ～眼科のお仕事～

特定技術部門 視能訓練士 本田 聖奈

視能訓練士は、8名在籍しており患者さまの目の健康をサポートしています。

視力検査や眼底検査(目の奥の画像を撮影する検査)といった検査、機能改善を目的とした弱視や斜視の検査・訓練、視覚障害をお持ちの方への視覚補助具の使い方や、日常生活での工夫を提案し、一人ひとりの状況に合わせた指導を行うなど幅広い業務を行っています。

眼科には、8つの専門外来がありそれぞれの専門分野に合わせた検査を行っています。特に、眼底検査は、緑内障や糖尿病網膜症などの早期発見に非常に重要です。当院では、光干渉断層計や視野計など、多様な検査機器を導入し、多角的な視点から病気を診断しています。

視能訓練士は、患者さまが快適な視生活を送れるよう、質の高い検査・訓練を提供するために、今後も日々研鑽を積んで参ります。

診療放射線技師 のお仕事

放射線部診療放射線技師長 林 秀樹

診療放射線技師の業務は、主に放射線を用いた検査及び治療を行っています。モダリティーは多岐に渡り、胸部X線撮影などの一般撮影検査、骨密度測定、X線TV装置を使用した透視検査、CT検査、造影剤を用いて血管を撮影・治療を行う血管造影検査、放射線同位元素(RI)を使用する核医学検査、放射線を使用してがん細胞を治療する放射線治療があります。また、放射線を使用しない業務としては、磁力を利用したMRI検査や、超音波画像診断センターでのエコー検査も行っています。さらに検査・治療だけではなく、画像データから3次元画像の作製、機器装置の管理や放射線被ばく管理、放射線治療における線量検証業務など、高度な放射線医療を提供するために39名が日々努力しています。

旭川工業の生徒からイルミネーションの贈りもの

この冬も病院正面玄関ロータリーに旭川工業高校電気科の生徒と道北電気工事業協同組合の皆さんによるイルミネーションが取り付けられました。点灯式には看護部長が出席し、直接お礼を伝えることができました。

作業した生徒から「病院を出て一番最初に目に入るところなので、ハート型がきれいに見えるように工夫した」とコメントをいただきました。玄関から見える景色にほっとします。毎年ありがとうございます。

病院長サンタがやってきた！



12月24日、東サタクロース病院長と井戸川トナカイ看護部長が、入院中の子どもたちにプレゼントを届けました♪

旭川市内の支援施設「ママコンシェルジュウェンズデー」さんからもプレゼントが届けられ、子どもたちへのプレゼント

はひとつだけではありません！

今年もたくさんの笑顔を見ることができました。



薬剤部 副作用情報(82) 重症高血圧

薬品情報室 寺川 央一

高血圧緊急症とは、血圧の高度の上昇(多くは180/120mmHg以上)によって脳、心、腎、大血管などの標的臓器に急性の障害(高血圧性脳症、脳血管障害、冠動脈疾患、急性心不全、大動脈解離、急性腎障害など)が生じ進行する病態である。本稿では、このうち、薬剤が原因のものについて解説する。

主な原因薬剤としては、非ステロイド性抗炎症薬、甘草・グリチルリチン、グルココルチコイド、免疫抑制薬、エリスロポエチン製剤・HIF-PH阻害薬、エストロゲン、MAO阻害薬・抗うつ薬、抗VEGF薬、マルチキナーゼ薬、経口血小板減少抑制薬・脾臓チロシンキナーゼ阻害薬などが挙げられる。

高齢者、腎機能や肝機能の低下例、投与前からの高血圧、多くの薬剤を服用中の患者などが高リスクとして知られている。

早期発見のため、新規発症の高血圧、高血圧患者の血圧コントロール悪化を認めた場合、他科処方薬も含めて、原因薬剤がないか詳細な問診を行う。該当薬剤を内服する患者に対しては家庭血圧の測定を指導することが必須であり、自己測定が困難な患者に対しては施設での血圧測定や家族による血圧測定などで早期発見を試みるのが推奨される。

薬剤の副作用として、高血圧を生じたり、血圧の管理が困難になったりした場合には、可能であればその薬剤を減量または中止することが望ましい。難しい場合には降圧薬治療を開始または増強する必要がある。

2023年12月に厚生労働省より本副作用の重篤副作用疾患別対応マニュアルが新規作成されており、詳細はそちらを参照されたい。

<参考文献>

「重篤副作用疾患別対応マニュアル(重症高血圧)」 <https://www.pmda.go.jp/files/000265668.pdf>

臨床検査・輸血部 11月11日は臨床検査の日

臨床検査・輸血部 高橋 希



いつも臨床検査・輸血部の活動にご協力いただきありがとうございます。

「臨床検査の日」は、臨床検査が病気の早期発見や早期治療につながる有用なものであることを広く知っていただくために制定されました。臨床検査で不可欠な+(プラス)、-(マイナス)にちなんで十一月十一日が臨床検査の日に設定されています。

臨床検査・輸血部は、毎年の「臨床検査の日」に合わせて企画を行っています。今年は10月28日～11月25日の期間、正面玄関ホールに患者さんへ向けたポスターの掲示、デジタルサイネージの掲載を実施しました。臨床検査・輸血部では多岐にわたる検査を行っていますが、どこでどのような検査をしているのかを知っていただくため、当院の検査室マップを作成し臨床検査と各検査室について紹介しました。

また、新型コロナウイルス感染症の抗原検査とPCR検査について、検査の過程をそれぞれ掲示しました。抗原検査に関しては、新型コロナウイルスの流行に伴い、患者さんや当院を訪れる方々がご自身で行う機会も増えていると考え、簡単ではありますが測定原理を紹介しました。

私たち臨床検査技師の業務は現代の医療において必要不可欠ですが、患者さんと接する機会が多くないことから、他の医療職と比較して知名度の低い職種です。しかし、コロナ禍を経てPCR検査に関わる話題でメディアに取り上げられる機会もあり、これまでより臨床検査技師の名を知っていただけるようになってきたことを実感しています。今後も「検査の日」のような機会を通じて、臨床検査について興味を持ってもらえるようにもっと多くの活動をしていけたらと思います。



「お会計はもう、待たない」ー後払い会計でスムーズ帰宅ー



このたび、患者さんの料金計算及び料金精算による待ち時間の緩和を目的として、令和6年12月16日(月)から、スマホ用アプリ「wellcne(ウェルコネ)」を活用した、「後払い会計」の運用を開始いたしました。

「wellcne(ウェルコネ)」を患者さん自身がお持ちのスマホにインストール(無料)し、本院の診療券とクレジットカードを登録すると「後払い会計」が利用できるようになります。診療費は当日の20時にクレジット決済で支払われるので、患者さんは料金計算窓口でのマイナンバーカード(保険証)や院外処方箋などの簡単な確認のみで帰宅できます。なお、領収書の原本が必要な場合は、翌日以降に料金支払窓口にお申し出いただければ、お渡しできます。

「Wellcne(ウェルコネ)」には、他にも病院からのお知らせを受信できるなど様々な機能があります。令和7年3月31日まで正面玄関ロビーに「アプリサポートブース」を設置しており、アプリのインストールや登録方法・操作方法の説明を行なっておりますので、お気軽に相談ください。

会計の待ち時間緩和のため、是非、積極的な登録にご協力のほどよろしくお願いいたします。



令和6年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来 患者延数	一日平均 外来 患者数	院外 処方箋 発行率	初診 患者数	紹介割合	入院 患者延数	一日平均 入院 患者数	稼働率	前年度 稼働率	平均 在院日数 (一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
7月	31,207	1,418.5	97.6	1,123	102.0	14,223	458.8	76.2	78.3	9.4
8月	29,011	1,381.5	97.9	1,010	104.3	14,512	468.1	77.8	79.0	9.8
9月	27,884	1,467.6	97.8	921	101.0	13,911	463.7	77.0	75.1	10.0
計	88,102	1,421.0	97.8	3,054	102.4	42,646	463.5	77.0	77.5	9.7
累計	175,684	1,416.8	97.7	6,231	101.6	83,769	457.8	76.0	77.0	9.9

時事ニュース

- ・冬休みキッズスクール 1月6日、7日
- ・白衣式 1月10日
- ・大学入学共通テスト 1月18日、19日
- ・病院機能評価訪問審査 1月29日、30日、31日
- ・病院立入検査 2月14日
- ・スポーツ医科学市民講演会 2月21日



編集後記 「シベリア廊下」

大学と病院を結ぶ通称「シベリア廊下」の改装工事が進む中、移動の際には外を歩かなければならない試練の日々が続いています。雪がちらつき、朝晩の冷え込みが身にしみる季節ですが、これも「冬の苦行」と思えばどこか趣深く感じられるから不思議です。こうした日々も時が経てば「そんな時代もあったね」と笑い話になることでしょう。財政が厳しい中で改装予算を確保いただいた執行部の先生方には心より感謝申し上げます。「シン・シベリア廊下」が完成し、単なる物理的な通路を超えて、学問の府と先進医療の場を結ぶ象徴的な架け橋となる日を楽しみにしています。

消化器内科 水上 裕輔